

日本史B

I 次の問1から問4に答えなさい。

問1 以下の文中の空欄 ・ に入るもっとも適切な語句を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

豊臣秀吉は、織田信長の後を継いで、全国統一を完成させた。1583（天正11）年には柴田勝家を近江の に破り、ついで勝家にくみした織田信孝（信長の三男）をも自刃させて、信長の後継者の地位を確立したのだ。翌年の1584（天正12）年では、秀吉は尾張の で織田信雄（信長の次男）・徳川家康の軍と戦ったが、戦局が膠着したために和睦した。以後、秀吉は東国を軍事的に征服する方針を転換し、朝廷のもつ伝統的な支配権を積極的に利用するようになった。

(選択肢)

- a 山崎の戦い
- b 小牧・長久手の戦い
- c 富士川の戦い
- d 姉川の戦い
- e 賤ヶ岳の戦い
- f 長篠の戦い

問2 以下の文中の空欄 ・ に入るもっとも適切な語句や人名を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

鎌倉幕府の成立と勢力の拡大に直面して、京都の朝廷では、立て直しが行なわれた。その中心にあったのが、 であった。 は、分散していた広大な皇室領の莊園を手中におさめるとともに、新たに西面の武士を擁して軍事力の増強をはかるなど院政を強化した。そうした中、1221（承久3）年、 はついに幕府執権北条義時追討の兵をあげた。結果的には、鎌倉幕府の圧倒的な勝利に終わった。そして乱後、幕府は京都には新たに をおいて、朝廷や西国の御家人たちを監視させた。なお、ほどなく京都の内外の警備などにもあたることとなった。また、乱後は、朝廷と幕府との二元的支配の状況は大きく変わり、幕府が優位に立つようになった。

(選択肢)

- a 京都所司代
- b 鎮西探題
- c 六波羅探題
- d 後醍醐天皇
- e 後鳥羽上皇
- f 後白河上皇

問3 以下の文中の空欄 ・ に入るもっとも適切な語句や人名を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

1931（昭和6）年、奉天（現在の瀋陽）郊外の柳条湖で南満州鉄道（満鉄）の線路爆破事件がおきると、関東軍はこれを中国側の仕事と発表してただちに軍事行動をおこした。当時の内閣は、事變の不拡大方針を声明したが、関東軍はこれを無視してつきつぎと軍事行動を拡大した。当時の内閣はこれをおさえることができず、結局は対応をめぐる閣内不一致により同年12月に退陣し、かわって が新内閣を組織した。この新内閣は「満州国」の承認を決めていたが、1932（昭和7）年に が事件で倒れた後、軍部の圧力と世論の突き上げもあって、政府も「満州国」の承認に傾いていくことになった。結果的に同年、日本政府は「満州国」の独立を承認した。

(選択肢)

- a 原敬
- b 犬養毅
- c 若槻礼次郎
- d 二・二六
- e 三・一五
- f 五・一五

問4 以下の文中の空欄 ・ に入るもっとも適切な語句や人名を、下記の選択肢から選び、解答用紙の解答記入欄に記号で答えなさい。

徳川綱吉の死後、江戸幕府の6代将軍徳川家宣は、綱吉の政治を支えた側用人を排除し、儒学の師で朱子学者の と側用人の間部詮房を信任して、政治の刷新をはかろうとした。しかし、家宣は在職わずか3年余りで死去し、引き継ぎ幕府政治は らに依存することになった。 は財政問題では金の含有率を下げた元禄小判を改め、以前の慶長小判と同率の小判を鋳造させた。また、長崎貿易では、多くの金銀の流出を防ぐために、貿易額を制限するなどした。こうした の文治政治は、 と呼ばれる。

(選択肢)

- a 正徳の治
- b 天和の治
- c 貞観の治
- d 新井白石
- e 木下順庵
- f 貝原益軒

II 次の文中の空欄に、もっとも適する語句や人名を解答用紙の解答記入欄に記入しなさい。

(1) 9世紀末から10世紀にかけて地方政治が大きく変化していく中で、地方豪族は勢力を維持・拡大するために武装するようになり、各地で紛争が発生した。東国では、が下総を根拠地にして一族と争いを繰り返すうちに、国司とも対立するようになり、939(天慶2)年に反乱をおこし、新皇と自称した。また、同じころ、もと伊予の国司であったも、瀬戸内海を率いて反乱をおこし、伊予の国府や大宰府を攻め落とした。こうした東西の反乱はおさまったが、この乱を通じて朝廷の軍事力の低下が明らかになり、地方武士の組織はいっそう強化された。

(2) 17世紀にイギリスで市民革命が、18世紀末にはアメリカ独立戦争やフランス革命がおこると、世界情勢は大きく変動していった。1792(寛政4)年、ロシア使節のが根室に来航し、漂流民を届けるとともに通商を求めてきた。しかし、当地での通商は拒否され、長崎入港を許可する証明書を受けて帰国した。1804(文化元)年には、ロシア使節のが、その入港許可証を持って長崎に来航したが、江戸幕府はこの正式使節に冷淡な対応をして追い返したため、ロシア船は樺太や択捉島を攻撃した。

(3) 奈良時代では、歴史書とともに、713(和銅6)年には諸国に対して産物、地味、山川原野の名の由来、伝承などの報告を求め、それに応じて地誌である「」が編纂された。現在、常陸・出雲・播磨・豊後・肥前の5カ国のものが伝えられている。また、日本古来の和歌も、天皇から庶民にいたるまで多くの人々によってよまれましたが、「」は759(天平宝字3)年までのそうした歌約4500首を取録した歌集である。この歌集には、宮廷の歌人だけでなく、東国の民衆たちがよんだという東歌や防人歌などもある。

(4) 1856(安政3)年、日米和親条約によって下田駐在の初代アメリカ総領事として来日したハリスは、江戸幕府に対して、通商条約の締結を強く求めた。ハリスとの交渉にあたった老中首座の堀田正睦は、条約調印の勅許を朝廷に求めたものの、孝明天皇の勅許は得られなかった。しかし、通商条約の調印を強くせまられた大老のは、勅許を得られないまま、1858(安政5)年7月に日米修好通商条約の調印を断行した。は、強硬な態度で反対派の公家・大名をおさえ、その家臣たちを多数処罰したが、この厳しい弾圧に憤激した志士たちによって、1860(安政7)年、江戸城ので暗殺された。このの変の結果、幕府の専制的な政治によって事態に対処しようとする路線は行き詰まり、幕府の威信は大きく動揺し始めることとなった。

III 以下の問について、各問の指示に従って解答用紙の解答記入欄に記述しなさい。

問1 1232(貞永元)年、北条泰時は御成敗式目(貞永式目)51カ条を制定して、広く御家人たちに示した。この式目の内容について、120字程度で説明しなさい。

問2 江戸時代の天保の改革に関して、その改革を行った中心人物(老中)の名前を明記し、彼の行った政策の一つである上知令について、その内容ともたらしめた結果について、120字程度で説明しなさい。